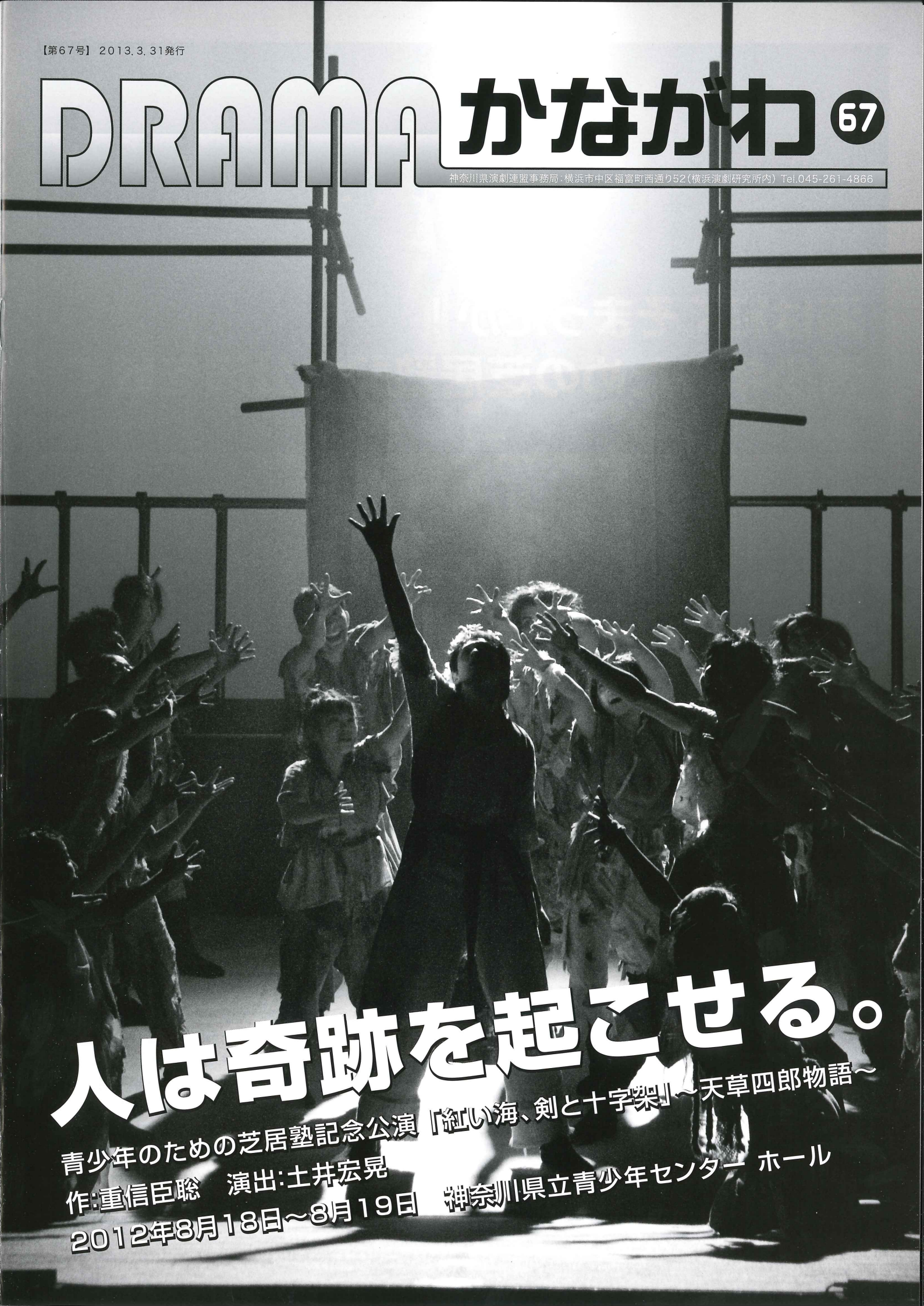


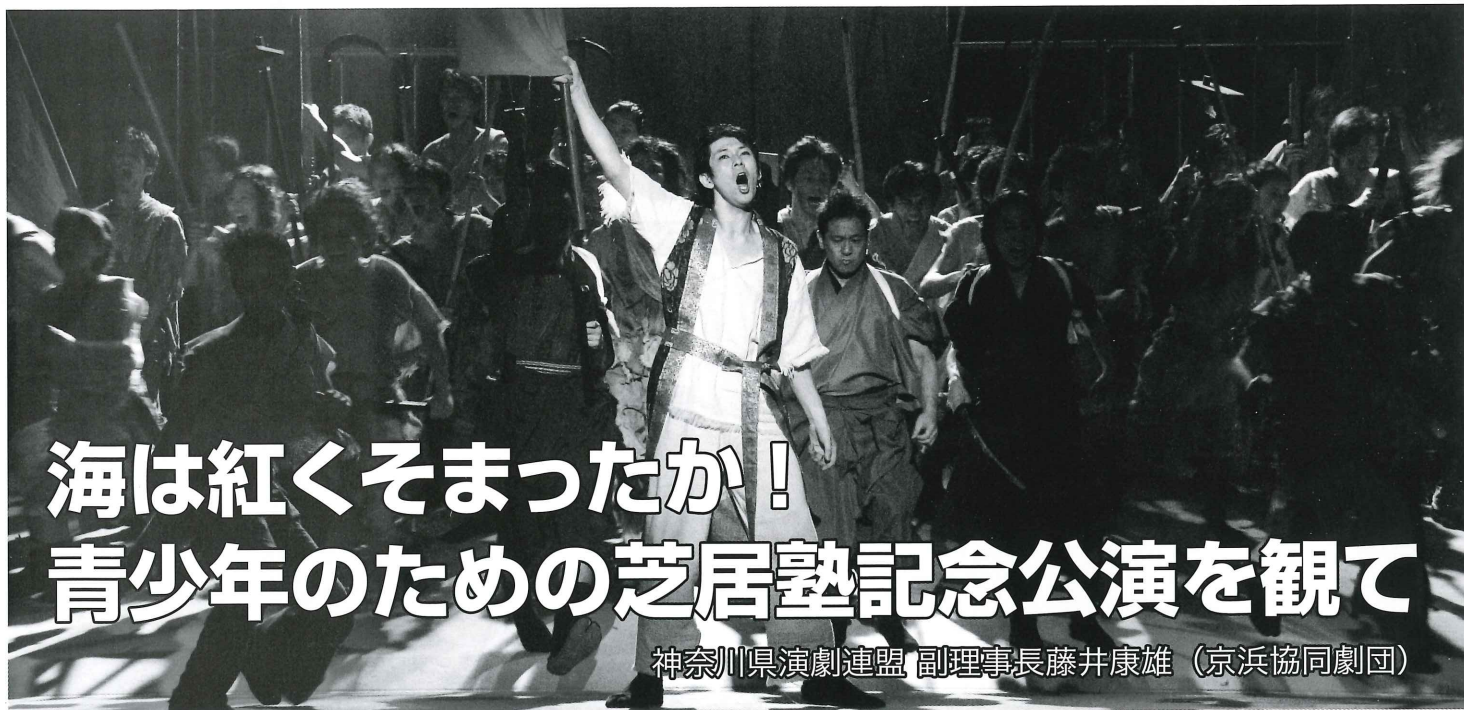
DRAMA かながわ 67

神奈川県演劇連盟事務局・横浜市中区福富町西通り52(横浜演劇研究所内) Tel.045-261-4866



人は奇跡を起こせる。

青少年のための芝居塾記念公演「緋い海、剣と十字架」～天草四郎物語～
作:重信臣聡 演出:土井宏晃
2012年8月18日～8月19日 神奈川県立青少年センター ホール



海は紅くそまったか！ 青少年のための芝居塾記念公演を観て

神奈川県演劇連盟 副理事長藤井康雄（京浜協同劇団）

神奈川県立青少年センターの開館50周年を記念して、従来は多目的プラザでの上演であった県演劇連盟企画の「芝居塾」が、大ホールでの公演という場を提供していただいた。

これまでの会場の便宜や、特に第6回目にあたる今回公演「紅い海、剣と十字架」の上演に当たっては、主催する側として全面的に参加していただき、企画から稽古のプロセス、仕込みから初演を迎えるために奮闘していただいた舞台関係者の皆様、普及や会場受付に至るまで全力でサポートをしていただいた青少年センターの皆様様に厚くお礼を申し上げます。

実は今回の「芝居塾」の公演には大きな関心寄せていた。取り上げる題材は島原の乱、天草四郎物語という副題がついていたからである。乱とは言え信仰の自由を要求し、過重な年貢負担に喘ぎ飢饉の被害に生命の危機に晒された民、百姓のお上に対する叛乱であり、言い換えれば世直し、正道を問う権力側に対する革命であったのです。天草四郎に結集する2万とも3万ともいわれる、恐らくは初めて武器をもったであろう農漁民たちに、12万の幕府大名の正規軍が籠城を続ける原城を包囲し壊滅させたのである。生き延びた人はいなかったという。

これは今日の世相を相当に意識した企画なのではないか！そう思ったのである。人為的な事故であったフクシマ原発

の事故、そのことに一切責任を負わない東電、政府。更に圧倒的国民の反対を押し切った消費税増税の成立強行。そのほかにもTPPへの参加やオスプレイ配備への容認そのほかあげれば切り無いほどの悪政の数々。何らかの切り口で今日へのメッセージが籠められているに違いない、と。

期待と関心を待った理由の二つ目として、「芝居塾」を担当して連続4回目となる「かぼちゃの馬車」がこれまでの経験の蓄積の上に、大ホールという芝居創りには好条件な機構を駆使した舞台を提供してくれるだろうというものであった。因みにこれまでの舞台を記録しておく、2009年「夏の夜の夢」2010年「ロミオとジュリエット」2011年シェークスピアの冬物語より「デトロイトウインター・テキサスサマー」である。共通する特徴をいくつか挙げるならば、応募してきた塾生に全力を出し切ることを要求したであろうことを予想させる熱気溢れるアンサンブルであり、あまり細部には拘らないまたは求めない演技、表現としては多大な効果を発揮する歌（音楽）と殺陣と群集場面の重視、早い場面転換、そして何よりも強みになっているのがシェークスピアに題材を求めながらも全て脚色、つまり創作による台本であったことである。

期待に違わず今回の舞台はそれらの特色要素に更に磨きがかかり圧倒的なボリューム感とスピード感を待って客席に迫ってきたのである。これは回り舞台の効果も大いに貢献していると思うのだが、あるときは広場に、道に、籠城する城内に、合戦場にとすばやく転換、50人余りの役者が自由自在に登、退場し、上下の花道も有効に使い飽きさせない。視覚的效果を狙った舞台美術も見事で場面の意味をシンボリックに表した振り落としの帆、天草一揆側の怒りを示す3枚の赤布とその使い方、犠牲となった亡き霊にささげる10個の灯籠の光とその移動など今でも印象に残っている。

何より胸を撃つのは「かぼちゃ」のメンバーが軸となりながらも始めて芝居にとりくんだ数十名全員で作arius



アンサンブルである。それは一つの方向性を持ったエネルギーとっていいのだろう。技術も経験もない若者達がそれに変わる何を持って舞台に立てるのかの証明がそこにはあったからであります。ひたむきさ、誠実さ、自分をかなぐり捨て全力投球することで始めて生まれてくるであろう爽やかな姿が小気味いいものであったし説得力を持つものとなったのです。それら若者たちはこの舞台に立ったことによって新たな自分にめぐり合ったことだろうし芝居の面白さに開眼したことであろうと思いました。「かぼちやの馬車」が追求してきたであろう「芝居塾」の一つの到達点がそこにはあったのです。

第一の関心を持った内容について触れます。

「ドラマとは人間と社会の対立と葛藤を描く」ことだとしたなら極めてその点では明快であったと思う。しかしその事を持ち込む余り宮本武蔵の娘、凜を登場させるとなると、リアルさは遠くなります。全てリアルでなければならないという意味ではありませんが、そのような演劇を永い間標榜してきた私としてはご都合主義的に映り、バーチャル化された世界として舞台との距離が遠のいていく傾向は否めません。「愉しんで見てればいいじゃん」という舞台もありますが、素直にそうなりきれない自分がいるのです。

演劇とは社会に向かって公開されるものである以上、誰の為の何の為の舞台なのかが気になるのです。(因みに私は間もなく古稀となります) 全体としての演技の質も、時間の少なさや演技経験の少なさなどが結果的にパワーとエ



ネルギー重視の紋切り型に陥りやすくそれをカバーしている努力は分りながらもどうしても荒削りになります。

しかしその中でも立てこもりの城内での一場は迫ってくるものがありました。ドラマ運びが全体としては急ぎすぎの中で、あの場面はかなり丁寧に描かれており、今日の状況に思いを致すインパクトを与えてくれました。私の期待に答えてくれたのです。(技術が伴わないことから起こる台詞回しや不明快さについては省きます。音楽は秀逸、但しバランスは一考してほしい)

芝居に興味を示す青少年を公募し「芝居塾」として一定の完成度をめざす試みは今回の公演でその一つの典型を作ったのではないと思う。今日の青少年が演劇に求める要求がどのようにあるのかは詳らかではありませんが、多分多様にあるその要求にどう応えていくのか、担当集団にとっては相当の負担と困難が伴うこの事業を今後どのように継続していくのか、新たな課題も見えてきた公演だったと思います。

芝居塾の総括

風雲かぼちやの馬車 土井宏晃

風雲かぼちやの馬車が芝居塾を担当したのは、第3回高校生の為の芝居塾と第1～3回の青少年の為の芝居塾の計4回でした。第2回の芝居塾を見て、高校生たちと行う芝居に衝撃と感動を受けました。それは神奈川県演劇が地域に密着しているからこそ、実現したものだと思います。そして私たちは神奈川演劇連盟から話を頂いた時に手を上げさせていただきました。参加の理由は、普段は出会える事のない高校生たちと触れ合うことによって、高校生たちの若く成長する力と、私たちの持つ知識や年を重ねたからこそ得た力が混ざり合う化学反応に大きな期待と楽しみがあったからです。さらに青少年の為の芝居塾になって触れ合える年齢層が広がり、その楽しみはより大きなものとなりました。そして演劇連盟の力添えもあり4年間担当させていただきました。

稽古場の雰囲気は、高校生の為の芝居塾では、高校生たちはグループに分かれていきました。それは青少年の芝居塾になるとさらに年齢の違いが垣根となり、多くのグループを作って行きました。しかしそれは稽古を重ねるにつれ、また私たちの特色である、歌やダンスを作り上げていくにつれ、年齢や性格の垣根を超え、急速に一致団結していきました。誰もが同じ汗を流し、同じ苦しみ、同じ楽しみを味わうこと、その演劇の醍醐味を稽古場で感じることができました。

しかし、どうしても年齢の違い、文化の違いは伝える言葉が大きく変わる時もありました。伝えたいことが伝わらない。説明をしても理解し合えない。しかし人に何かを伝えるのは言葉にある意味ではなく、伝える言葉にある情熱をぶつけていく。意味ではなく、大切な言葉なんだと伝えていく。それは私たちが芝居塾で塾生たちに教わった大きな財産でもあります。

芝居塾が始まって6年、それは地域に広がり、少しずつ規模が大きくなり、第3回の青少年の為の芝居塾では800人以上のホールで公演にいたりしました。それは神奈川の地域の力であり、塾生たちの力であり、神奈川演劇連盟の力で成り立ったものです。そうやって輪が広がり続ける芝居塾に、また機会があれば参加したいと思います。

TAK in KAAT

神奈川県演劇連盟×KAAT神奈川芸術劇場 第三弾

「神奈川の地で活動し続け50年。神奈川県演劇連盟が誰にも負けないもう一つの演劇の形を、皆様にお届けします。」をキャッチフレーズに、「神奈川芸術劇場 OPENING LINEUP」の1つとして、2011年4月に始まった企画が、“TAK in KAAT (Theater Association of Kanagawa in Kanagawa Arts Theatre)”です。KAAT神奈川芸術劇場 (KAAT) と、神奈川県演劇連盟 (TAK) との提携公演も今年で3年目となりました。今年は2週にわたり昭和の匂いがするお芝居をお届けします。

神奈川県演劇連盟プロデュース公演 「踏切があがるとき」

父は国鉄で働いていた。1987年国鉄は民営化される。その狭間で起きていた国鉄労働組合の闘争。父は闘争に敗れ堕ちていく。働いていた姿すら覚えていない息子は父の生きた道を父の知り合いの証言を頼りに紐解いていく。遠くで聞こえる踏切の音、父は何を息子に残したのか。

脚本：緑慎一郎（演劇プロデュース『螺旋階段』）

演出：土井宏晃（風雲かぼちやの馬車）

料金 前売2,500円、当日2,800円 ※日時指定 / 全席自由

5月3日（金）18:30

5月4日（土）14:00/18:30

5月5日（日）14:00

【予約・問合せ】

kaatkenenren@yahoo.co.jp

080-4638-7383



雪やこんこん～湯の花劇場物語～

舞台は、昭和二十九年十二月中旬。湯の花温泉・佐藤旅館の芝居小屋に、旅廻り劇団「中村梅子一座」がやって来た。座長の梅子と、女将の和子が言葉を交わすうち、二人が実の母子と分かるが…。大衆演劇のセリフにのせて、嘘と真実が絡み合う。そしてその果てに見える真実は。

作：井上ひさし

演出：濱田 重行

一般：3,000円（当日料金は3,500円）

※土曜夜限定割引券あります、詳しくは劇団まで。

70歳以上 / 学生：2,000円（前売・当日共通）

小学生以下：1,000円（前売・当日共通）

4月26日（金）14:00～ / 19:00～

4月27日（土）14:00～ / 18:00～

4月28日（日）14:00～

【予約・問合せ】

info@yokohamalza.jp



編集長が斬る!

編集長が神奈川県演劇連盟を取材する連載企画

第4回 劇団よこはま喜座 熊谷浩子

「プロフェッショナルを探し続けて」

劇団よこはま喜座は、2009年に解散したアマチュア劇団、劇団蒼生樹を前身として、2010年4月に、座長・濱田重行を中心に結成された劇団です。その中で女優として活躍している熊谷浩子は一体どのように思っているのかを取材してみました。

私にとっての修行の場

—演劇を始めたきっかけを聞かせてくれますか？

憲法劇です。そこで濱田さんと出会って劇団蒼生樹に入座したのは1988年でした。それまで演劇に関わってはいませんでした。

—お芝居を続けてきていかがですか？

続けてきて…。うーん、修行です。

—修行？

芝居っていろいろなことがあると思うのです。芝居の世界にいるからこそ、必要にせまられて私は勉強するのです。何かを積み重ねていこうとするのです。怠け者の私は芝居の世界にいなかったら、こんなに勉強しなかったと思う。仕込みの時に「ヌキを持ってこい」「スンニで打っとけ」の意味がわからなかったり、先輩たちのやっていることを見て、裏方の仕事をこなしていったり、芝居の世界にいないければ、なかなか勉強しないことを、芝居をしているおかげで、歴史を勉強したり、着物の柄の名前を覚えたり、歌舞伎のことを調べたりする機会を与えられる。どれかが私のプロフェッショナルになると思ってやってきましたね。

—そういった意味で修行をしていると？

そう、でも、未だに見つかっていないの。だから、自分の好きなことをずっと芝居に携わりながら探しているの。

今年から色気のある女優に

—思い出に残っている役はありますか？

「想稿銀河鉄道の夜」の「ジョバンニ」役。初めての主役だったし、男の子の役であったことも印象に残っています。稽古も楽しくて、わたし的にもかなり感情移入してやっていた記憶があります。それはジョバンニが「本当の幸い」を探していたということが、一番気持ちを寄せやすかったからかな。

—男の子役が一番印象に残っているのですか？

昨年「寿歌」に携わってみて、同じ作者だったせいか、共通するセリフがあったことがわかりました。ゲサクの「きつねとくまとうさぎの話」。自分の命と引き換えに相手を助けるというエピソードがあって、ゲサクのセリフをきいた時、昔私がジョバンニをやった時のことを思い出し、当時は「本当の幸い」についてちょっと考えたことを思い出していました。インタビューが緑君じゃなかったら違う役をあげていたかもしれないけど。

—今後やりたい役はありますか？

エロい、私、今年はエロい女優になろうかと思って。

—え、今年から？壇蜜みたいなことですか？

それ！あでも壇蜜だと若すぎるから、もう、なんて言うのかな。毛穴からエロスが流れてくるような、そういう感じ。私に欠けているのはそれ！エロい女になろうと思って。

—舞台上での話ですよね？

もちろん舞台上でね。裸になるとかそういうことではなくて、艶っぽい感じ。そういう役、芝居をやりたい。

—とにかくエロい役を与えろと。

そう。脱がなくても色気が出る役を、年増の色気が出せる役をやらせてください。

私にダメ出しを!

—よこはま喜座は4年目になりますがどうですか？

どうですかね？…不安はあります。劇団員がなかなか増えてないし…。

—不安だけ？

いや、のびのびやらせて頂いていますよ。昔はいろいろありましたから。なんだろうな、楽をさせてもらっています(笑)

—今後も役者をやっていきますよね？

難しいことを聞くなあ。…役者、やっていきますよ

—最後に座長に一言ありますか？

「どうか私にダメ出しを！」

ダメを出されなくなって久しいです。役者として、演出からダメが出ないなんて、お先真つ暗な気持ちになります。

熊谷浩子は真面目な女優です。それが舞台にも役として表れています。長いこと役者を続けてきて、未だに自分のプロフェッショナルといったものを探していました。それが芝居を続ける理由とも語っていました。でも、取材を通して僕はわかっています。たとえプロフェッショナルが見つかるとも彼女は女優であり続けますし、芝居を続けていきます。艶っぽい女優、僕は期待しています。

DRAMAかながわ編集長 緑慎一郎



熊谷浩子 プロフィール

よこはま喜座所属

生まれてから半世紀、演劇活動は四半世紀が経ちました。シミ、シワ、脂肪、白髪が押し寄せ中、負けじともがいて踏ん張っております。私のささやかな夢がいつか叶うと信じて、芝居人生を歩んでいきます(どんな夢かはヒ・ミ・ツ)。

潜入!! 神奈川演劇界の新風

演劇プロデュース『螺旋階段』

某日、私は神奈川演劇界に新風を吹かせ続ける「とある劇団」の取材を行う為、1時間弱東海道線に揺られていた。景色は段々と“緑”豊かになるなか、「ここにあるもの、ここにしかないもの、今日は何を取材出来るのか」頭のなかで妄想が続いていた。

取材：海老名信吾（劇団よこはま壱座）



そして、記者が駅に降り立ち、新幹線口の箱根ベーカリーを横目に「小田原市生涯学習センターけやき」(以降けやき)に向かい歩き始めた。最初に来たのは一昨年KAATで行われた湘南・西相地区の合同公演「八月のシャハラザード」に参加した時に、携帯のGPSを利用し向かった事を思い出す。懐かしさと、期待感を胸に演劇プロデュース『螺旋階段』(以降螺旋階段)の稽古場に辿り着きドアを開けると、そこには…知らない人たちが!!って、あれ?新人の方達か?いやいや、部屋を間違えた。気を取り直し螺旋階段の稽古が行われている(であろう)ドアを開けると、螺旋階段の代表 緑慎一郎氏をはじめ螺旋階段の面々が稽古を行っていた。(よかった)

稽古場では先日行われた第10回神奈川県演劇博覧会の参加作品、作/演出 緑慎一郎「騙す」の稽古中であった。稽古場は和やかなムードである。笑いも絶えず、みんなが集まる場所、集まりたいと思う場所なのだと感じた。稽古が始まり演出からの駄目出しは勿論のことながら、役者同士でのアドバイスや叱咤激励がよく飛んでいる光景が非常に印象的だ。そういえば、螺旋階段のみんなと呑んだ時に露木幹也さん(通称おやじ)が言っていた言葉を思い出す。「芝居は誰か一人のものじゃなく、みんなで創るものなのだから、役者同士で言いあったっていいと思うのだよ。誰かが悩んでいるなら、俺だったらこうするよっていう選択肢を渡すことで、みんなで共有して同じ方向を向いて芝居ができるじゃない。それが劇団の良さなんじゃないのかな。」流石“おやじ”だ(笑)、それは真理なのだと感じた。確かに最終的な決定や方向性の定義は演出が行うものだが、そこから作り上げていくのは演出を含めた役者、裏方すべての人間なのだから、分からない事へのサポートは必要なことなのだと思う。そんな考えの人間がいるということは劇団にとって財産だ。それにしても、螺旋階段には色々な『個性』が集まっている、滑舌が悪く何を言っているの

か聞き取れない学校の先生、歌が苦手なのにいつも歌わされる看板女優、色々な役を器用にこなす年齢不詳なパン屋さん、そこまでやるかという程にキャラを作ってくるアロマセラピストなどなど、濃い!!そんなメンバーを纏め上げる早口で優しく厳しい髭面の強面…そして、螺旋階段には様々な用語があるのだ。例えば、滑舌が悪く何を言っているか分からない状態は『水野ってる』、早口で台詞が聞き取れない事を『緑ってる』、番外編?で嘔み倒す事を『海老名ってる』というらしい。ん、なんだこれ?何故自分で自分の欠点をここでさらさな…、うん、はい、ごめんなさい…っと、まだまだ他にも色々なメンバーが居るのだが、あげるとキリがないのでここではここまでにとどめようと思う。様々なメンバーが集まる劇団は楽しさを残しつつ稽古が終っていく、楽しさの余韻を残し帰り際に、例によって数人での呑み会に御呼ばれし参加する。(決してこの為に取材をしているわけではない)呑み会の中でも、芝居の話は常に中心となり盛り上がる。やはり、これが劇団を続ける秘訣なのかもしれない。

東海道に揺られ帰路に着く際に色々な事を考える。代表 緑慎一郎氏は意欲的に芝居に関わり、過密なスケジュールをこなしていくのは何故なのだろうか?何より人との繋がりを重要視する緑氏だからこそ、忙しい中を縫うように、自分が好きな芝居に関わって行くのだろう。そして、そこで出会った人との“縁”が緑氏にとっての“演劇”なのかもしれない。そして気が付けば、横浜を過ぎ川崎に居る…乗り過ぎた!!楽しい時間の後には現実に戻る時間があるものだ。しかし、螺旋階段のこれからは現実を踏まえた上で、楽しい芝居の時間を過ごしていく劇団だと思う。いや、編集長だからじゃなくですよ!(笑)楽しみだ!そこに関われる事はきっと幸せなのだと思う。今日は楽しく酔え…ちがう、ちがう、良い取材が出来た。私はこれからも螺旋階段を見ていきたいと思う。

■ 蘇った演劇資料 — 資料整備プロジェクト

横浜演劇研究所が60年間に亘って収集してきた演劇資料は膨大なものになります。1980年代に演劇研究所の事務所、図書室（稽古場）に収容できなくなり戦後～1980年代新劇資料（職業劇団）6,000点余りを神奈川近代文学館に寄贈しました。

その後も増加の一途をたどり、パンク寸前のところで2005年7月青少年センター演劇資料室が開設されました。しかし、資料室の広さに限りがあり、開設当初から収容しきれない図書、資料が大量にありました。その後、各方面からの寄贈もあり未整理の資料が大幅に増加、どう整理すればいいのかの重い課題でした。

昨年(2012年)秋、朗報です。未整理資料を整備、保存するため非常勤職員を雇用して作業を行う事業提案が青少年センターからあり、早速「資料整備プロジェクト」に取り組みました。この仕事に非常勤職員として公募で採用された井上学さん、小磯映子さん、榊原光代さんの3名がチームを作って進めることになりました。作業の期間は2012年11月～2013年2月の4ヶ月間、作業場所は青少年センター別館3階（旧ユースホステル）。作業方針は、1) 資料を新たに分類整理して永く保存できる状態にすること。2) データ化し、整理ができ次第、ネット上で公開すること。

3) 資料の見直しを行い、スリム化を徹底すること。

作業チームにより効率的に緻密な整理が進捗しました。作業は資料室のバックヤードにあたる通路ラック、PCB倉庫、演劇研究所から段ボール箱を運び上げることからはじまります。箱から取り出した図書、資料には積年のちり・ほこりが層をなしており、1点、1点クリーニングを行います。また、膨大な舞台写真の多くには公演演目、劇団、上演年月日の記載がなく図書、ネット検索で調べなくてはなりません。根気と体力の必要な仕事ですが、和気藹々とすすめられました。なによりうれしかったのはチームメンバーが半分ごみ状態の資料に愛と尊敬の念をもって取り扱っていただいたことです。整理されたファイル、データは下記の通りですがすばらしい仕上がりで50年後の人たちがこれらの資料が伝えられてよかったと言えるようなロングスパンの視線に支えられております。

日本と海外の職業演劇ポスターは山本忠利さんに協力して頂きすべて写真撮影、画像データ化しました。（アマチュア演劇については未着手）2月末、プロジェクト終了の時点で、未整理の資料が多く残されました。残された仕事は日々の演劇資料室の業務の合間を見てつづけることになります。資料整理はたいへんなマンパワーが必要です。県演連のみならずにもご協力いただきたくお願いします。

■ 演劇資料室実績

2012年利用者数 1,940人（一般546人 劇団員699人 小中高大学生327人）
利用者の住所 横浜市1,163人 神奈川県下506人 神奈川県外83人
年次別 2008年2,065人、2009年1,829人、2010年2,316人、2011年2,043人
ボランティア・スタッフ 11人（内基幹的スタッフ 5人）
図書貸出数 641冊（日本の戯曲 429冊、外国の戯曲 45冊、その他の演劇書 70冊、雑誌（貸出用）97冊）
所蔵図書 8,040冊 所蔵雑誌（逐次刊行物）4,600冊

■ 資料整備プロジェクト（非常勤職員整理分）統計 2012.11.1～2013.2.28

- 横浜演劇研究所主催「フォルクスビューネの集い」公演資料：5,736点（Excelデータ化済み）
[内訳] フォルクスビューネの集い 5,475点、こどもの劇場 111点、特別鑑賞会 60点、名作鑑賞会 30点、青少年演劇教室 60点
- 横浜演劇研究所収集・国内劇団公演ポスター：132枚
- 横浜演劇研究所発行冊子類：642冊
[内訳] 「フォルクスビューネ」誌 178冊、「よこはま演劇」誌 380冊、「アマチュア演劇」誌 84冊
- 横浜演劇研究所収集・海外演劇資料：3,974点
[内訳] ドイツ（西独・東独）2,322点、アメリカ 1,117点、ベルギー 103点、スウェーデン 29点、フィンランド 16点、中国 15点、カナダ オンタリオ州 1点、各国演劇雑誌・小冊子 371点
- 整理資料総計 10,484点
蔵書目録、雑誌目録、戯曲目録、アマチュア演劇上演記録のデータベース登録は年間を通して継続作業を進めております。

僕らの演劇

劇団やぶさか

「カエルの魔女とネズミの王子」

演出・脚本 海老原あい

1月19日・20日 於:相鉄本多劇場

僕は劇団の公演でまず考えるのが、フライヤーデザインである。演劇公演に於いて、フライヤーデザインは観劇するまでに一つの妄想を駆り立てる。70年代の演劇では、天井桟敷のポスター等を横尾忠則氏が制作していて、それは一つのアートして存在感があった。音楽CDにはジャケットは重要である。最近の劇団はどうもその部分がレアである。今公演のフライヤーは切り絵でとても素敵である。



このようなレベルの高いフライヤーを他の劇団も参考にすべきである。ドラマ神奈川では1C印刷なので、リアルなフライヤーは劇団やぶさかのweb-siteをご覧ください。

そんな妄想を持って本多劇場に行ってみた。まずは観客層が神奈川演劇連盟に加盟している劇団の客層とは違うように思えた。たまたま、その日だったとは思えない名門女子大出身で結成された劇団の客層である。それを定義づける根拠はない…勝手な主観である。但し、客席には私の嫌いな演劇臭はなかったことは事実である。

私は英国に数年住んでいたことがある。ご存じの通り、英国はハリーポッター、指輪物語、ライオンと魔女等のファンタジー文学の宝庫である。今公演は作者がどの程度、ファンタジー文学に影響されたかは知るよしもないが、少なからずその影響はあるのだろう。

さて、公演内容だが演出、脚色、舞台美術、衣装などは女性劇団ならではのセンスの良さがあった。特に動物の仮面は個展を開いてもいいレベルであり、私がロンドンで観劇した



仮面劇を彷彿させるものがあった。仮面の装飾、色合い、大きさ、装着した雰囲気はどれも完璧であった。また、衣装、舞台美術、照明等もきちんと計算された美しさがあった。問題は役者である…女性の役者のセリフキーは2トーンの2種類であり、そして同じセリフ回し、それに加えて滑舌が悪い。同じセリフ回しは大学演劇部特有である。ファンタジーの芝居は、低音がフックで必要である。オーケストラで言えば、コントラバスがないと席から浮いてしまう。女性だけの劇団ならば、一層の事、全員男役で芝居したらどうだろう？ そんな妄想を終演後にまた素敵なフライヤーを見ながら、家路へ。

ヨコスカ・ベアフットシアター 三浦正行

青少年のための芝居塾 参加者募集

定員：50名程度(簡単なオーディションあり)

対象：中学生～29歳まで

参加費：無料(資料代として3,000円かかります)

公演：平成25年8月17日(土曜日)・8月18日(日曜日)

公演会場：県立青少年センター ホール

主催：「青少年のための芝居塾公演」製作委員会(神奈川県演劇連盟・横浜演劇研究所・神奈川県立青少年センター)

担当劇団：ミュージカルプロジェクトin神奈川(M. PinK)(神奈川県演劇連盟加盟劇団)

申込方法：平成25年4月25日(木曜日)《当日消印有効》までに、

申込書をファックス、郵送、またはメール(申込書の1から10の必要事項を記載)で送付してください。

【申込み・問合せ】

県立青少年センター舞台企画課

〒220-0044 横浜市西区紅葉ヶ丘9-1 TEL:045-263-4475 FAX:045-241-7088

神奈川県演劇連盟加盟団体(50音順)

- H&Bシアター●演劇プロデュース『螺旋階段』●京浜協同劇団●劇団蒼い群●劇団河童座●劇団かに座
- 劇団こゆるぎ座●劇団麦の会●劇団やぶさか●劇団横綱チュチュ●劇団よこはま壱座●風雲かぼちゃの馬車
- まりこ☆みゅーじあむ●ミュージカルプロジェクト●横須賀市民劇場プロジェクト●ヨコスカ・ベアフットシアター●横浜小劇場

神奈川県演劇連盟HP：<http://kenenren.org/>

DRAMAかながわ[第67号] 発行日:2013年3月31日 発行:神奈川県演劇連盟

編集:緑慎一郎(演劇プロデュース『螺旋階段』)・浅水真子(劇団やぶさか)・海老名信吾(劇団よこはま壱座)・関口素実・山元洋一(外部協力)